

2011年2月から 2011年4月のその他の活動

2.8独立宣言第92周年記念式



2月8日、2.8独立宣言第92周年記念式が行われました。禹武錫大韓民国国家報勲次長と権哲賢駐日本国大韓民国特命全權大使による記念辞に続き、2.8独立宣言が朗読されました。式典の終わりには、参加者皆で声高く万歳を三唱しました。

東京韓国学校の生徒とオモニ（お母さん）により構成された合唱団の歌は式を大いに盛り上げました。同時に、集まった若い生徒たちにとっては、92年前に若い世代が外国の地で祖国のために担った独立運動について学ぶ良い機会になりました。

張恒星先生の受賞を祝う会開催



前号で紹介した通り、YMCA 韓国語講座講師の張恒星先生が、海外韓民族教育振興賞を受賞なさいました。これをお祝いするために、張先生のご家族、ご友人、教会の教友、そして韓国語講座のこれまでの受講生の方など、およそ50名が集まって、「張恒星先生の海外韓民族教育振興賞受賞を祝う会」が2月19日にYMCA2階レストランで開催されました。会には20年以上前の受講生の方も参加され、先生との旧交を温めていらっしゃいました。張先生はスピーチで「韓国語の教科書を執筆するという夢を実現したい」と今後の抱負も語ってくださいました。さらなる活躍をお祈りいたします。

日本語学校学生が千代田区在住高齢者と交流



2月24日、日本語学校に在学する7名の韓国人留学生が千代田区高齢者センターを訪問し、区内在住の15名の高齢者の方たちと交流会を行いました。センターで韓国語を学んでいる方、韓国ドラマに興味を持っている方など高齢者の皆さんが、韓国から来た留学生に直接韓国語のあいさつを習い、また韓国のユンノリ（すごろくに似た遊び）でいっしょに遊び、楽しい時間を過ごしました。

また、3月8日には日本語学校の中上級クラスの学生たち14名が同センターを訪ね、7名の高齢者の方にインタビューを行いました。学生たちは日頃なかなかかかろうことのできない高齢者の方の豊富な人生経験や日本の高齢者の暮らしぶりについて、詳しくお話を聞かせていただきました。

いずれのプログラムも、楽しくて時間があっという間に過ぎてしまったという声が参加者から多く聞かれました。

韓国伝統楽器・舞踊無料体験講習会

韓国の伝統楽器・舞踊の教室を30年近くにわたって開講しているYMCAでは、伝統文化の紹介、普及を目的として、毎年春に無料でこれらを体験していただく特別プログラム（無料体験講習会）を開催しています。

今年もチャング（3月30日）、カヤグム（3月31日）、舞踊（4月2日）の3クラス合計で30名の方が参加なさいました。韓国の映画やドラマで見たことのある、楽器や舞踊を実際に体験し、皆さんたいへん満足していらっしゃいました。さらに本格的に学んでみたいとなった方は、4月から開講される楽器、舞踊教室を受講されることになりました。

東京センテニアルYサービスクラブ (ワイズメンズクラブ) のご紹介



2005年6月に東京センテニアルYサービスクラブは誕生しました。国際的な奉仕団体ワイズメンズクラブ国際協会に加盟し、「センテニアル」の名前の由来は在日本韓国YMCA100周年にちなんで付けられ、一般には愛着を持って「東京センテニアルクラブ」と呼ばれています。クラブの目的の最初に「その奉仕活動を通じてYMCAの活動を支援する」と掲げられており、東エルサレムYMCA支援やオリブ平和映画祭、バザー、日本と韓国童謡の集いなど在日本韓国YMCAのさまざまな活動を支えています。

毎月第2金曜日に例会を持ち、卓話をはじめメンバーの研鑽と親睦を深めており、メンバーでなくともゲストとして参加ができます。



今後の予定 2011年5月～7月

【東京韓国YMCA】

- 5/9 (月) 第215回教界指導者朝食祈禱会
- 5/14 (土) オリブ平和映画祭
- 5/21 (土) 在日本韓国YMCA創立105周年記念感謝礼拝
- 7/4 (月) 定期会員総会
- 7/4 (月) 第216回教界指導者朝食祈禱会

【関西韓国YMCA】

- 5/13 (金) 第99回教界指導者早天祈禱会
- 5/22 (日) つながりソフトボール大会
- 5/28 (土) 定期会員総会
- 6/19 (日) 生野教会一致祈禱会
- 7/8 (金) 第100回教界指導者早天祈禱会

《編集後記》

大震災後テレビで流れ続けていた「こんにちばこんにちワン、ありがとうありがとうウサギ」のCMの歌が小学校で大流行だそうです。がんばろう日本！（朴）

震災による自粛で何かと暗い雰囲気ですが、笑顔は他人を元気にさせます。笑顔でいきましょう。（才）

落ち着いた日が続きますが、深呼吸をして、毎日感謝を忘れず、笑顔で過ごしたいと思います。次号は明るいニュースが届けられますように。（た）

時局は時局として飲み会をやりませう。詳しくはツイッターにて。（べ）皆さま、余震や原発危機にお気をつけてお過ごし下さい。（AT）

『かけはし』次号は2011年7月発行予定です。

KAKEHASHI かけはし 2011 Apr. vol.3

発行人：金秀男 発行：在日本韓国YMCAアジア青少年センター
〒101-0064 東京都千代田区猿樂町2-5-5
TEL 03-3233-0611 FAX 03-3233-0633
http://www.ymcajapan.org/ayc/jp/
ayc@ymcajapan.org



twitter ツイッター @zainichiyymca
より良い紙面づくりのために、ご意見・ご感想等お寄せください。

YMCA 在日本韓国YMCA
アジア青少年センター
Korean YMCA in Japan
Asia Youth Center

かけはし

東日本大震災被災地を訪ねて

オ門勇介 (YMCA会員)

2011年3月11日 東北を中心とする大地震が発生し、その後の津波により、甚大な被害をもたらしました。死者、行方不明者は2万6千人を超え（4月10日現在）まだ、その被害のすべてを把握できていないといえます。また、余震、原発等、不安が残っています。東京でも計画停電や節電が行われています。

そうした中、いろいろな教会等で物資は集まっているが持っていく手段がないという話と、福島県いわき市の平福音教会から物資がないというヘルプがあったので、第一便として3月16日に長野クリスチャンセンターのバンに物資を積み込み、緊急車両指定を受け、いわき市に向かいました。

いわき市で救援物資の拠点となっている平福音教会は町の中心部ということもあり津波の被害はなく電気もすでに復旧していました。しかし、原発問題があるため（教会は原発から50キロ程度）、たくさんの人たちが避難して町がまるでゴーストタウンのようになっていました。そんな中、十数人の教会員が残り（女性子供はすでに避難済み）集まった物資を避難所、病院等に配る活動をしていました。その中で印象的だったのは、病院からもヘルプが来るくらいこの小さな教会がもちいられていること、また、このような最前線で教会として奉仕することによって「神の栄光をあらわせる」ことを彼らが喜んでいることでした。クリスチャンの強さを感じました。

福島県は全体的に原発による風評被害もありトラックが入らず、す

べての物資が不足している状態でした。

その後2度いわき市に物資を運びましたが、3月末には、どんどん日本中の教会からの物資が届き、その時点で10トン以上配っている上に、さらに10トン以上の物資がストックされているような状態でした。

次に4月6日から塩釜、石巻に向かいました。上野の神の愛の宣教教会からボランティアスタッフの拠点となっている塩釜カトリック教会への物資の運送を頼まれたこと、弟が震災直後に石巻に持っていったプロパンを回収するためでした。

【2面に続く】



募金にご協力ください 窓口に持参または郵便振替で 00190-4-539049 在日本韓国YMCA

「東日本大震災 YMCA 救援・復興募金」 未曾有の困難に祈りをもって立ち向かいましょう。

聖書に聴く 第3回

許伯基牧師(つくば東京教会)

「苦難をも誇りとします」

主イエスの名によって苦勞を重ねたパウロは言う。「そればかりでなく、苦難をも誇りとします。私たちは知っているのです。苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生む、ということ」(ロマ5:3-4)。練達とは「熟練して深く通じていること」である。韓国語では、金属が溶鉱炉の中で錬られて、より純粋な金属になっていくことを言う「練鍛」が使われている。英語では「character」つまり人格、あるいは品性である。つまり、苦難によって人は忍耐することを学び、溶鉱炉の中で金属から不純物が抜けてより純粋になっていくように、練られることによって素晴らしい品性を備えた人格へと成長していく。そうして成長した人格は、どんな状況でも「希望」を見いだす。

して「再建しましょう！」と言えるのか？ それは数多くの苦難と、その苦難から学んだ忍耐と、忍耐によって練られた品性によって、どんな状況でも希望を見いだすことができる円熟味を身につけたからではないか？

今、私たちは苦難の中にある。この大災害のなかで、それぞれが苦しんでいる。しかし、覚えよう。その苦勞は無駄にはならない。この苦勞の中から新たな忍耐が生まれ、新たな忍耐は新たに練られた品性を私たちの中に作り出す。そうして成長した私たちの人格は、どんなわずかな可能性の中でも希望を見だし、しっかりと前へ歩む強さを持つことだろう。そしてどんな苦難と危機の中でも、私たちにはこの十字架がある。神が私たちに強く強く愛してくださっている、という確信がある。ひとり子を犠牲にしてまで救ってくださった私たちに、どうして神が見捨てることがあろうか？ どのような結末が待っているにせよ、それは神の計画の中で、私たちにとって「最善」なのである。

【1面から続く】



私は初めて仙台方面に入ったのですが、海沿いを走る高速から、よくテレビで見るような津波の傷跡がはっきりとわかりました。塩釜市から石巻市へと街中は、やはり想像を絶するような状態で、街のそこら中に押しつぶされた自動車や船までもが片付けられないまま放置されていました。

しかし、意外なことに、被害の状態は私が見た中で一番ひどい状態にもかかわらず、町には活気がありました。市役所で聞いて、いろいろな避難所も回りましたが、必要な物資はある程度そろっていて、避難所自体もほとんど解除されていました。自衛隊、大規模ボランティアが街の中で炊き出し、片付けを手伝い、復興に向けてみんなが力強く頑張っているようでした。人々の持つたくましさを感じ、また逆に福島県の状態と比べることで原発というものに対する無力感を感じました。

この三週間、被災地を訪ねて感じたことは、緊急で命を救うという意味での個人ができる第一段階の一律支援時期は終わったということ、しかし、そうは言いながらも復興への道は長く、継続した支

援、気持ちが必要だということ。その中でこれからは個別の継続的支援が必要だということです。その必要な支援の形態はそれぞれ違います。例えば福島県ではまだ物資も必要かもしれませんし、また、避難したい人たちの受け入れ先も必要です。逆に石巻市のような復興に向けて動き出している場所ではボランティアの人材や復興支援金のほうが必要かもしれません。

そういったことを考えたとき、YMCAにできることは大きいでしょう。

こんなときだからこそ、というだけでなく、今までのYMCAがしてきた支援などの延長として、このYMCAができること、また、しなければならないこと、与えられた使命を考えるべきでしょう。

YMCAは拠点、ネットワーク、そして人材を持っています。それを活かし、受け入れの準備や義援金募金活動を始めています。その中でも、いろいろな形の支援、奉仕があります。だからこそ我々YMCA会員も個人がそれぞれできることを考え、みんなが気持ちをひとつとして、祈り、働くときではないでしょうか。



3.11 東日本大震災 地震発生 当日の YMCA の様子

3月11日午後2時46分、今まで経験したことのない強い地震が起きました。各地に大きな被害を与え、一ヶ月以上経った今でも余震が続く東日本大震災が発生したのです。

当日、YMCAにはスタッフはもちろんホテル宿泊者、韓国語講座の受講生など大勢の人たちがおり、発生後、会館内で余震におびえながらその後の対応に備えました。夕方から夜にかけて、帰宅できなくなった近隣の会社の方などもロビーや2階レストランに集まり始め、テレビで状況を見つめていました。

電車が止まり、帰宅できなくなった人たちがホテルの予約はすぐにいっぱいとなり、その後も部屋の空き状況の問合せが続いたため、YMCAでは3階の教室を開放することにし、シュラフ（寝袋）、毛

布など仮眠のための備品を提供し、希望者には宿泊いただけるようにしました。

レストランでは飲みものの無料提供に続いて、夕食と翌日の朝食も各100食を無料で提供することとし、ホテル宿泊者だけでなく、会館内に泊まった方やお隣の神田女学園の生徒、教職員の方たちにもご利用いただきました。

これらの働きに対して、後日多くの皆さんからお礼の言葉をいただきました。当日、力を合わせお手伝いいただいた皆様に深く感謝申し上げます。



東日本大震災 YMCA 救援・復興募金のお願い

期間：2011年3月14日（月）～4月30日（土）



日本のYMCAでは被災された人々の救援・復興を目的に、災害支援本部を立ち上げ、緊急支援活動及び被災地のための募金活動を全国で展開します。

皆様の尊いご支援とご協力をお願い申し上げます。

【募金方法】

1) 会館内での受付
会館内の募金箱、またはYMCAスタッフまで直接ご持参ください。

- 2) 銀行振込
三菱東京UFJ銀行 神田支店
普通 4707550 YMCA アジアセিশョウネンセンター
※ 振込者名の前に「キフ」または「KF」と入力してください。
- 3) 郵便振替
郵便振替口座 00190-4-539049 加入者名 在日本韓国 YMCA
※ 「東日本大震災指定」とご明記ください。

募金は、日本YMCA同盟を通じて、被災地の人々、活動現場に届けられます。

2011年1月から3月のプログラム

さあ、われらの旅を語り合おうか ～在日、コリョサラム、コリアン・ディアスポラ～

朝鮮民族が歩んだ近代の苦難の歴史の中で、日本に渡った在日コリアンと、旧ソ連に渡り強制移住の歴史を経て現在中央アジアに暮らすコリョサラム（高麗人）が、出会い、お互いを知り合い、語り合うという興味深いプログラム「さあ、われらの旅を語り合おうか～在日、コリョサラム、コリアン・ディアスポラ～」が3月6日、YMCA9階ホールで開催されました。

ウズベキスタンからは、現地で刊行される「高麗新聞」の編集長であり、多数の著作があるキム・ブルットさんをお招きしました。日本からは写真家の李朋彦さん、詩人のぱく・きょんみさんが語り手として参加してください、進行役は中央アジアのコリョサラムについて長く取材を続け著作を発表している作家の姜信子さんが担当されました。

会場に集まった参加者は、キム・ブルットさんのお話や姜信子さんの紹介する貴重なビデオを通して、日本ではあまり紹介されることの少ないコリョサラムの歴史や現状を学びました。一方、キム・ブルットさんも、李朋彦さんが写真とともに紹介して下さった在日一世たちの生き様についての話、ぱく・きょんみさんと仲間の皆さんによる自作詩の朗読やカヤグム演奏等を通して、これまでご存じなかった在日コリアンの歴史、文化について、大いに理解を深めたと語って下さいました。終了後の懇親会にも、コリョサラムの留学生をはじめ、多くの方が参加され、さまざまな交流の輪が広がっていました。

YMCAでは、今回のキム・ブルットさんとの出会いに感謝し、今後も友情を育みつつ、さらに交流を深められるよう、関連プログラムを継続して企画していきたいと考えています。



左から、李朋彦さん、キム・ブルットさん、ぱく・きょんみさん、姜信子さん

韓国伝統楽器・舞踊教室発表会

毎年恒例の韓国伝統楽器・舞踊教室発表会が、今年も3月5日にスペースYホールで行われました。韓国舞踊、チャング、カヤグム、それぞれのクラスの受講生の皆さんが、この1年間の練習の成果を披露しました。今年習い始めたばかりの方のフレッシュな演技にも、10年以上のベテランの方の華麗な演技にも、会場からはたいへん大きな声援と拍手が送られていました。



第4回日中韓平和フォーラム

金弘明(在日本韓国YMCAスタッフ)

韓国の仁川で行われた第4回日中韓平和フォーラム(2011/1/20-22)に参加しました。東北アジアの平和構築をテーマに日中韓のYMCAが集い、課題の共有、YMCAの果たす役割、具体的な協働のプログラムを語りあいました。2004年から続いており、総主事をはじめとしたスタッフと理事らレイパーソンが参加し、運動の広がりとしてYMCAの平和を作り出す力に期待を感じました。

ヤン・ミガン牧師による基調講演はこのフォーラムの方向性と有効な手段を示唆させるものでした。協力関係が進むほど葛藤(歴史・領土問題など)も現れ、それを和解に転換するには時間と労力をかけて何度も会い、相手の発言の背景や脈絡を読み取り、信頼を積み重ねることが重要であることを感じました。強く印象を受けたのは「怒り」は課題に向き合う動機になるが解決には結びつかないという指摘でした。最終日は南北の非武装地帯近くまで移動し、凍てついた臨津江(イムジンガン)を挟んで北を臨みました。これほど近いのに平和が訪れるにはまだ時間がかかるかと思うと胸が詰まりました。初めての参加者が一番多く、議論を継承していくことの大切さを感じました。



募金にご協力ください

窓口に持参または郵便振替で
00190-4-539049 在日本韓国YMCA

「YMCA国際協力募金」

すべての人々が国、民族、宗教の違いを認め合い、平和にいきいきと暮らすことができる社会をつくり出すための国際協力・地域奉仕活動のために用いられます。